



10月の行事計画表

会務報告

8月のお盆には、帰省してお墓まいりに行った方もおられると思います。先祖や親の恩を感謝する習慣は、運転免許を返納した高齢者には厳しく、JRやバス、タクシーを乗り継いで大変な思いをしてたどり着くしかない。

お盆前後は台風が次々に到来し、空港や新幹線の運行停止で混雑、高速道路も渋滞とTVで放送されていました。(8月15日時点) 反って墓参りに行けなかったことが幸いしたと安堵しますが、複雑な心境ですね。

パリオリンピックが終わり、日本が連日好成績で、テレビ漬けの生活でしたが、みなさんはいかがでしたか？夜更かしした方もおられると思います。温寒の激しい時期であったが、体調に十分気を付けましょう。

先日、老人クラブ独自で「戦争体験を語る集い」を開きました。テーマに魅かれて、たくさんの会員外の参加者が集まり、熱気で盛り上がりました。特に故長谷川金吾さん(前会長)のDVDを上映し、戦時中の徴兵検査の体験談、タコ部屋体験などは真に迫った身振りで迫力がありません。又、「札幌報国隊」として勤労奉仕ばかりで勉学がなかった話もよく分かりました。

このような会員外が参加できるような企画をどんどん立てたいものと思います。みんなでよい企画を出しましょう。

日程	行事内容	会場
10月 3日	10時00分 ラジオ体操・会務報告 11時00分 室内ゲーム	情報センター 大会議室
10月 6日 日曜日	札幌ろうあ者文化祭典 老人クラブは小物販売 活動と将棋教室担当	西区24軒 身障福祉セン ター体育館
10月 10日	10時00分 ラジオ体操・報告会務 11時00分 ミニ講座 「消費者トラブルにならないために」	情報センター 大会議室 消費生活推 進員
10月 17日	10時00～ 清掃活動 11時00～ 倉庫の整理活動	札幌社会福祉 総合センター 情報センター 倉庫
10月 24日	地下鉄真駒内駅改札口前 12時15分集合 送迎バスで駒岡保養セ ンターまで(無料) 一泊研修会	駒岡保養セ ンター 参加費(1人) 6,150円 事前に予約す ること。詳しくはチラシを ご覧下さい。
10月 31日	10時00分 ラジオ体操・会務報告 11時00分 老人寺子屋 「健康であるために 食を考える…Ⅱ」	情報センター 大会議室 とも支援

ちしき の 泉

気候変更(きこうへんこう)ってなあに？

「気候変動」とは、地球温暖化に異常気象が加わったものです。気温が上がるばかりでなく、雨の降り方も変わってきます。石炭や石油を燃やすと温室効果ガス(二酸化炭素やメタン)が発生し気温が上昇します。それによって、雨の

降り方が変わり、干ばつや砂漠化、洪水、暴風雨、山火事などが世界中で起きています。日本でも暑い日が続く熱帯夜になって、熱中症などの健康被害や、暴風雨で住む家が失われたり、命を落としたりする人が増えています。我々高齢者もエコな生活を心がけるようにしましょう。

(T/T 記)

耳の雑学



アメリカを「米国」、フランスは「仏国」、ロシアは「露国」とする表示は、今でも新聞報道やTVニュースに使われています。

お米の取れる国？仏様のいる国？露骨な国？などと誤解される表示ですね。なぜでしょう？

明治政府が発足した時、外国をどのように表示するかで困って、いきおい適当な漢字をあてたという事です。そこで「耳」という漢字が使われた国名もありました。今はもう「死語」となっているが、面白いので取り上げてみます。

・**土耳其**=トルコ ・**白耳善**=ベルギー ・**馬耳寒**=マルセイユ このように「耳」が「ル」と読まれて使われていたそうです。

地名に「耳」の漢字がつく山、川、土地名を探したが流石に少ないようだ。奈良県には「和歌」で歌われる「**耳成山**」がありました。大和三山の一つで知られています。低い山ですが、地面から人間の耳が突出して生えたように見えるのでそういう名前になったと言われるが諸説があるらしい。↗

他にも「耳」のつくものがある。獣類には「**丸耳象**」(マルミミゾウ)があり、アフリカ象の属に分類されており、絶滅危惧種とされている。

鳥類では・「**耳烏賊**」(みみいか)・「**耳夜鷹**」(みみよたか)・「**耳雉**」(みみきじ)・**耳黒郭公**(みみくろかっこう) 魚貝類では・「**耳貝**」(みみかい)

昆虫では・「**耳蟬**」(みみせみ) 辞書を調べると体は普通のセミより小さく耳の色が違って、「種目」が違うことで名づけられたみたいです。

余談ですが、昨年夏に「とも」が「手話語り」した・「**耳なし芳一**」の昔ばなしも面白かったね。

・目の見えない芳一は、琵琶の弾き語りで名を知られていました。ある夜平家の怨霊に呼び出されて墓地に行くと、無数の鬼火に取囲まれます。その様子を聞いた和尚が芳一の体中に般若心経のお経を書きます。しかし、両耳を書き漏らしたために引きちぎられてしまいました。盲目の耳なし芳一は琵琶法師として生きたとの話。(小泉八雲著)

・**おれの耳(おさつのみみ)**つまり紙幣の耳・端とも言います。今はコンピューターで、間違い印刷や切断が見られなくなったが、旧弊にはよくありました。珍しいのでコレクター間で引っ張りだことか。(N記)

穴埋めクイズ・・・楽しかったネ！ 7/25

老人寺子屋 → (とも支援)



今回の穴埋めクイズは、すごく楽しい勉強会でした。出された問題は8回ぐらいあり、判った人から手を挙げて、ホワイト

ボードに回答を書き入れる方法を取りました。手を挙げていなかった人も順に進めながら、地名や対象物の手話表現をやってみました。中には、出された地名の歴史や幼い時に経験した話が飛び入りして、穴埋めクイズから脱線する柔軟さも、老人寺子屋の面白みとなっている。ここで学んだことをひとつ一緒に勉強してみましょう。

「久留□、□子、□沢、□原」の問題ですが、□にどんな漢字をひとつ入れたらよいですか？

「米」を入れます。しかし、読み方はみな違います。左から「くるめ」「よなご」「よねざわ」「まいはら」と読みます。他にも「こめ」「べい」もあり。日本漢字の読み方は本当に難しいものになっていますね。

「カーリンコン」を楽しみましょう！

去る8月22日は、北海道カーリンコン協会の講師を迎えて、競技の方法を学びました。

このカーリンコンとは氷上でやる「カーリング」を床上に代えて、ストーンを赤と緑2色の円盤(ディスク)に変えたものです。



両チームがそれぞれ6枚のディスクを互い違いに投げ合い、どちらかポイントに近づいているかを競う簡単なスポーツでした。

北海道カーリンコン協会から7人の講師とスタッフが、床上にラインを作って、会員を4つのグループに分けて楽しく競い合いました。参加した準会員の3人も交じって選手になりました。



投げる円盤は表が赤色で裏が緑色になっており、裏返しになると相手方の得点になるような採点方法で、面白い競技でした。

むずかしいルールがなく高齢者でも楽しめます。

戦争の体験を語る集い(8/8)

- ① 亡き長谷川金吾さんのDVD鑑賞
- ② 札幌聾話学校の戦争疎開と戦争廃校の経過

まず初めに、企画部長富山さんが司会を兼ねてパワーポイントによる鑑賞から始まりました。画面では故長谷川金吾さんが笑顔で苦しかった戦時中の生活を身振りで語りました。「徴兵検査」された経験、そして「タコ部屋」に召集された網走ボンモイ石切り場での経験談。集まったフロアの方々も初めて聞く信じられないような話に鳥肌が立った。今回は、老人クラブ会員だけでなく広く呼びかけたので、いつもの2倍以上の参加者となりました。

金吾さんの奥様、長谷川マリさんが娘さんと一緒に参加され、映像になかった裏話を語って頂きました。ありがとうございました。



故長谷川金吾さん



長谷川マリさん

「長谷川証言」の掘り起こし運動を行った当時の「聾研ゼミ」の一人であった中根氏が、長谷川金吾さんを取り巻く背景をポイントで補充しました。特に徴兵検査を受けたろうあ者は誰一人いなかった。如何に長谷川さんは、周りや役所関係からも情報を得られない環境に置かれていたかが分かる。

そして召兵されて戦死した近所が「戦没者遺族金」を支給されていたことに、実母から「お前も戦死すれば良かった」と言われて負い目を負わされたこと。さらに、ボンモイへ行ったことが、ろうあ者の仲間に、「悪いことをして網走監獄に入られていた」という誤解を噂されて苦しめられたこと。ろうあ者の時代背景に対する理解の浅さが、40年間長谷川さんを苦しめたことを解説しました。



宮内昭治さん

彼も一人の戦争被害者と言えます。休憩の後、二人目の証言者、宮内昭治さんが登壇。太平洋戦争が始まったのは小学低学年だったことや、勉学が一つもなく毎日「札幌報国隊」として神社清掃活動、

農家支援、近所のドブさらい、防空壕作り、さらに召兵された学校付近の家族への生活支援などに明け暮れていた。そして「札幌聾話学校」が国鉄に売られて廃校し、疎開先の「御影(みかげ)町(今の清水町)」へ「学童疎開」させられました。そのために自分は小学校の卒業証が受けられないまま生きて来ました。現在94歳になっています。

引き続き、歴史調査した中根氏が、背景などポイ

ントの補充説明が行われました。札幌の「学童疎開」の実態は、全国でもまれな「戦争廃校」となっています。全国のほとんどの聾唖学校は、再建されるなどして元に戻っています。廃校になった札幌市内ではろうあ教育機関が無かった空白期間が生じました。再建したのは聾児を抱える父兄たちで、初めは二つの小さな私塾を元教師宅に依頼したが、教師たちの入院などでボランティア活動も限界となり廃止した。父兄たちが、現在の「札幌市視聴覚障がい者情報センター」が建立する前にあった「地藏寺」の本堂で「私立星光聾唖学園」を開校した経過を述べました。

私たち老人クラブが、そのセンターで毎週木曜日に例会を開き続けていた不思議な縁のつながりに、参加者の人々が驚きの声をあげていました。

終わりに沼沢会長が、今回は43名の参加者で盛会したこと、暑い中勉強していただいたお礼の言葉を述べて解散しました。

ついに出来た！

老人クラブの会員募集のピラ...

ついに出来ました。「とも」の寺子屋担当班が文案とデザインを、住友さんがレイアウトして魅力的に仕上げてくださいました。高齢になった手話サークル員や独りぼっちなろうあ者に「入会」を呼びかける案内状です。

A5判で4ページの小さな

ものですが、裏側には6枚のカラー写真を掲載して「楽しく和んで活動」している様子を掲載しています。今までは、こういう宣伝チラシや案内状を作ったことがなかったが、高齢化による会員減の危機感から対策を始めました。

まず初めに、市内の手話サークルに案内状とこれまで発行した「老人クラブニュース」を配布します。

次の手は、10月6日に開催する「札幌ろうあ者文化祭典」で会員募集を大々的に宣伝するよう行う予定です。その時にみんなで、このピラを配りましょう。

皆さんも一人ぼっちで暮らす寂しさを経験していると思います。手話で語り合う仲間のいない生活は、きっと味気なく虚しいことでしょう。

そういう人がいなくなり、楽しい老後と一緒に穏やかに過ごせたらと願います。

また、独りぼっちなろうあ者が周りにいたらぜひ誘っててください。

